

ほこり 保子里 8 号墳発掘調査

所在地	鈴鹿市国府町字井口 5 7 - 9		
調査目的	道路改良に伴う埋蔵文化財の記録保存		
調査期間	平成 1 8 年 1 0 月 2 3 日～平成 1 8 年 1 2 月中旬 (予定)		
調査面積	8 5 m ²		
調査主体	鈴鹿市考古博物館 (鈴鹿市国分町 224 番地)		
電話	059-374-1994	FAX	059-374-0986
E-Mail	kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp		
URL	http://www.edu.city.suzuka.lg.jp/museum/		

1 はじめに

今回の調査は、医療法人 鈴鹿回生病院への進入路の改良に伴うもので、その事前の発掘調査です。この場所は保子里古墳群を含む保子里遺跡の内に位置しています。そのため、今回の調査に先立ち遺跡保護のための協議をしましたが、保子里 8 号墳の西側半分が削平されることになり、やむを得ず発掘調査による記録保存をすることになりました。

保子里 8 号墳は鈴鹿市国府町字井口に所在し、鈴鹿川右岸の河岸段丘上に位置します(資料 1)。周辺では、これまでに発掘調査が数回行なわれており、古墳時代を中心として縄文時代から平安時代までの集落跡が広がっていることが確認されています。また、戦前には 28 基もの古墳があったと伝えられていますが、戦後には開墾などによって 18 基にまで減少したようです。その後も開発が続き、今では 10 基程度しか残っていません(資料 2)。

現在残っている古墳はほとんどが円墳ですが、前方後円墳や方墳、^{そうえんかん}双円墳など様々な形状のものがあります。中でも車塚とも大塚とも呼ばれている保子里 1 号墳は、明治 32 年に発掘調査され、^{すいしよくつきみかざり}垂飾付耳飾や鏡、^{だいつきどうわん}台付銅鏡、鉄刀、装身具など豪華な副葬品が出土したことで知られています。古墳の中には石を組んでつくった部屋があり、その床には小石が敷かれ、その上に石の棺が 2 つ納められていました。この 1 号墳に埋葬された人は、かなり身分の高い人であったようで、この辺りの有力な首長であったと想像できます。出土した遺物から、今から 1500 年程前の 6 世紀中頃につくられた古墳だと考えられています。なお、出土遺物の一部は、東京国立博物館に収蔵されています。この他にも周りに数多くの古墳が密集していますが、ほとんどの古墳がこの頃に造られたものと推定されています。

2 発掘の成果

1) 古墳の周濠

調査の北と南の2ヵ所で、古墳の周りに巡らされていた濠（周濠あるいは周溝といいますが）が確認されました（資料3）。

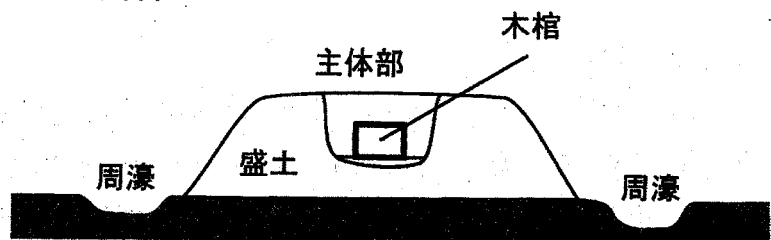
南側の周濠は、2mの幅で、深さが30cm程度あります。調査地が後世に削られてしまっているため、実際にどれだけの深さがあったのかは分かりませんが、本来はもっと深かったはずで、断面の形は浅いすり鉢状を呈しています。また、途中で折れ曲がり向きを変えていることが分かりました。なお、ここから須恵器の短頸壺と呼ばれる土器が1点、完全な形のまま出土しました。その特徴から6世紀中頃のものと考えられます。

北側の周濠は、幅2mで、深さ80cm程掘り込まれています。南側で見ついている周濠よりも50cmも深いですが、実際にはこれ以上の深さがあったと考えられます。範囲が狭いため詳しくは分かりませんが、南側と同じく途中で折れ曲がり向きを変えているようです。遺物は一切出土しませんでした。

2) 主体部（埋葬施設）

古墳の頂上から真下に約1m掘り込んで、埋葬する施設を造っているようです。その中には一般的に、木で作った棺が置かれていたと考えられますが、今回の調査では明確な痕跡は見つかりませんでした。その穴に埋まった土を観察すると、一度に埋まっているようであり、過去に盗掘にあっている可能性もあります。遺物は土師器の破片が1点見つかっただけです。

参考資料



古墳断面の模式図

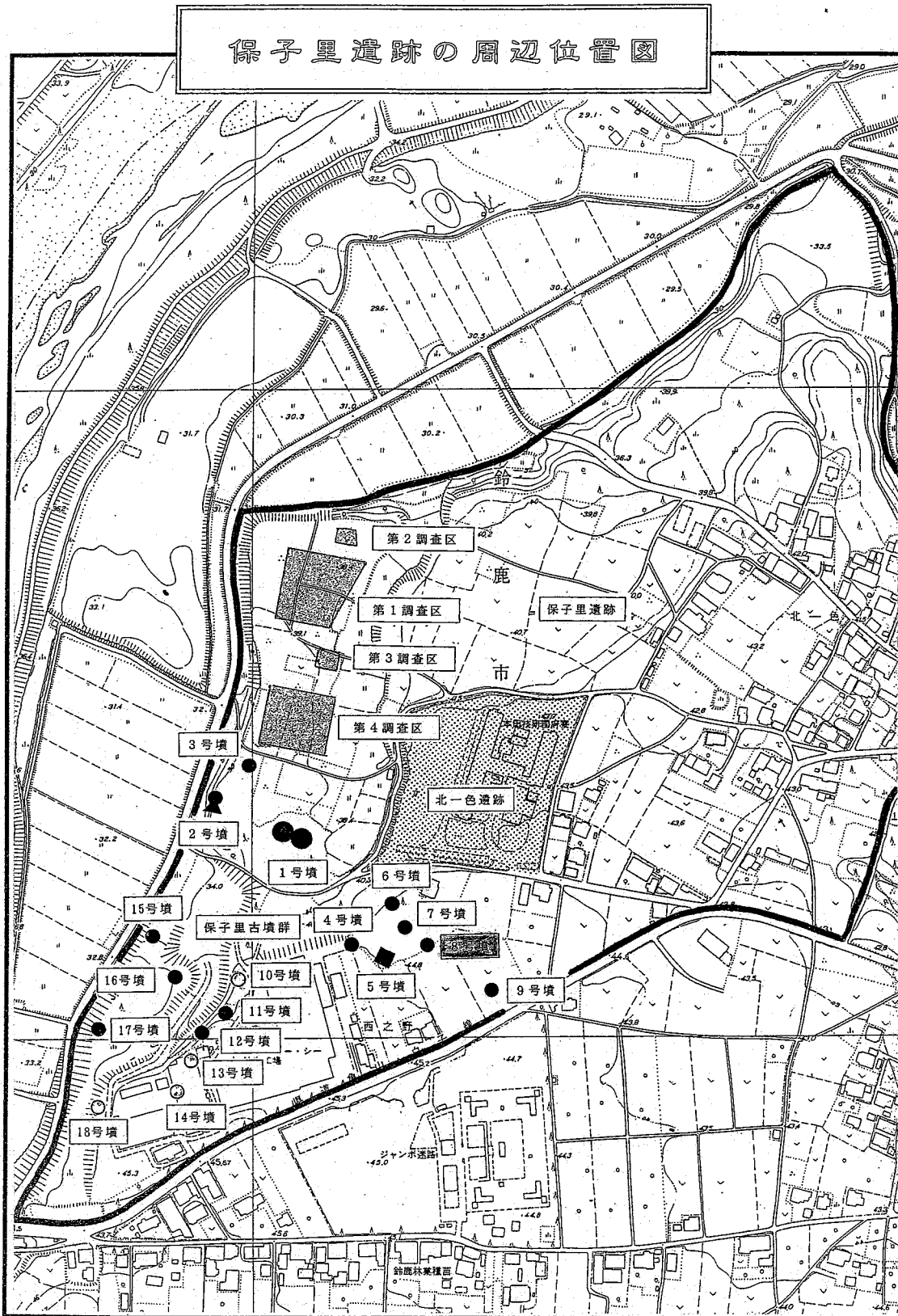
3 まとめ

今回の調査によって、次のことが分かりました。

- ① これまで円墳と考えられてきましたが、周濠や古墳自体の形から方墳の可能性が高くなってきました。
- ② 周濠から出土した遺物から、この古墳が6世紀中頃に造られたものであることが分かりました。

なお、今回の調査後には、この保子里8号墳の西側半分は消滅してしまいます。時代の流れとはいえ、貴重な文化財がなくなってしまうことは非常に残念に思います。

最後になりましたが、発掘調査にあたって医療法人 鈴鹿回生病院には格別のご理解とご協力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。



1 : 5, 0 0 0

1999年9月に行なわれた保子里遺跡発掘調査説明会資料から引用

資料 2

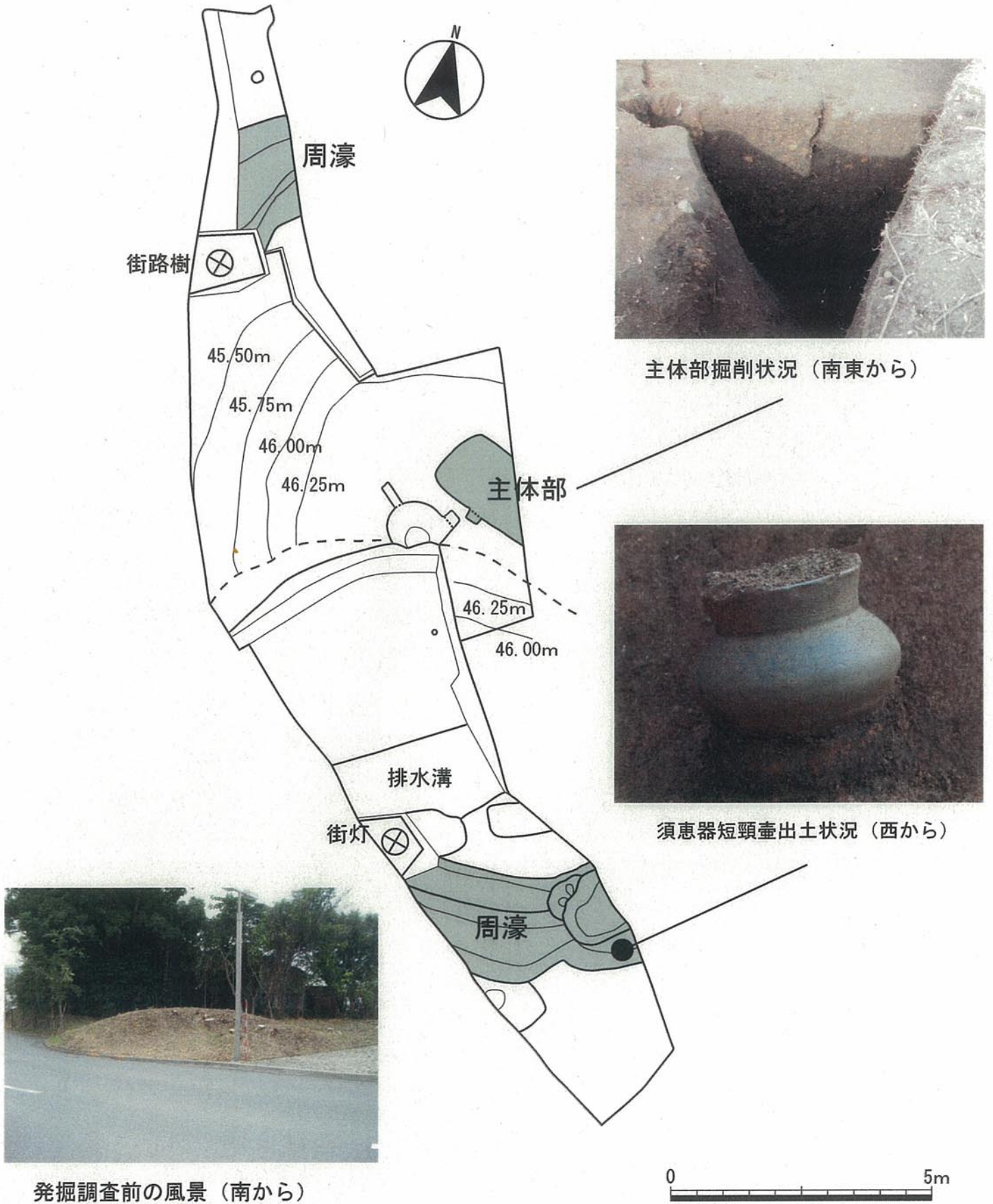
古墳名	形 状	古 墳 の 規 模 ・ 備 考
1号墳	双円墳	全長46m 高3m、東墳径21m 高3m、西墳径20m 高3m
2号墳	前方後円墳	全長23m、後円部径16m 高2.5m、前方部幅9m 高3m
3号墳	円 墳	径 9.5m 高1.3m、半壊 →盛土により保護
4号墳	円 墳	径 7.5m 高0.8m
5号墳	方 墳	一辺14.7m 高2.3m
6号墳	円 墳	径 9.8m 高1m 消滅
7号墳	円 墳	径10.8m 高1m
8号墳	円 墳	径 5.8m 高0.5m 調査(半壊予定)
9号墳	円 墳	径11.5m 高1.2m 半壊
10号墳	円 墳	径16.7m 高1.3m 消滅 エフ・シー・シー鈴鹿工場敷地内
11号墳	円 墳	径11.5m 高0.9m エフ・シー・シー鈴鹿工場敷地内
12号墳	円 墳	径16.7m 高1.3m エフ・シー・シー鈴鹿工場敷地内
13号墳	円 墳	径10.2m 高0.5m 調査(消滅) I7・シー・シー鈴鹿工場敷地内
14号墳	円 墳	径11.5m 高1.5m 調査(消滅) 鉄鏃、刀子、須恵器
15号墳	円 墳	径 5 m 高0.4m 痕跡
16号墳	円 墳	径10.5m 高1.6m
17号墳	円 墳	径15.1m 高1.7m
18号墳	円 墳	径13.3m 高1.6m 調査(消滅)横穴石室、勾玉、鉄鏃、鉄刀

鈴鹿市史、鈴鹿市遺跡地図より

1999年9月に行なわれた保子里遺跡発掘調査説明会資料から引用

(一部改変)

資料 3



遺構配置図 (1 : 100)